

## ● 栽培のポイント

### ○排水対策

本暗きよの点検・整備や、弾丸暗きよ・明きよの設置は、播種後に対応できません。近年、集中豪雨等による浸水害の発生頻度が高くなっているため、排水対策は播種作業開始前までに完了して、浸水害発生時の被害を軽減しましょう。

### ○播種

「すずみのり」の栽植密度は、畦間75～80cm、株間20～25cmとし、播種深は3～4cmに設定して播種してください。

「すずみのり」を含め、大豆作では播種時の碎土率の確保が、出芽率や土壌処理剤の効果に大きく関係し、収量や品質にも影響します。播種時の碎土率（2cm以下の土塊の割合）が「70%」以上を確保できるように、ていねいな作業を行ってください。

なお、熟期が“中生の晩”なので、6月中旬以降に播種する晩播栽培には適しません。

### ○病害虫防除

「すずみのり」の紫斑病抵抗性は“強”ですが、一般的な病害虫対策とあわせて、基本的な防除を行ってください。

ウィルス病のA～Eの5系統に抵抗性をもっていますが、立枯性病害抵抗性は“中”のため、播種前に種子消毒を行い、初期害虫とあわせて防除しましょう。

「タチナガハ」と同様にダイズシストセンチュウ抵抗性が“弱”のため、同一ほ場での連作やセンチュウ被害の既発ほ場への作付けは避けてください。

### ○収穫

「すずみのり」の成熟期は、「タチナガハ」より2～5日早くなります。適期収穫に努め、刈遅れによる品質低下を避けましょう。

# 大豆優良品種「すずみのり」 栽培マニュアル

参考

## ● 大豆優良品種「すずみのり」

「すずみのり」はタンパク質含有率が高く、豆腐・味噌の原料として有望な、県産大豆の安定生産・供給を図り、実需者ニーズに応えることができる優れた品種です。

長野県で育成され、令和2年7月に品種登録出願が公表されました。



「すずみのり」← →「タチナガハ」  
写真提供：長野県野菜花き試験場（育成地）

宮城県では、令和4年3月に「すずみのり」を優良品種に採用し、「タチナガハ」との一部切り替えを進めていきます。

## ● 「すずみのり」の特徴

宮城県内の栽培で「タチナガハ」と比較すると、成熟期はやや早く、機械収穫に適した多収品種です。

5月下旬播種の標播栽培で「タチナガハ」と比較すると、開花期は同等で、成熟期は2日～5日早く、多収です。成熟期の最下着莢高が高く、難裂莢性で、コンバイン収穫に適しています。

子実はやや大粒で外観品質は「タチナガハ」に優り、タンパク質含有率も「タチナガハ」より高く、豆腐・味噌への加工適性も「タチナガハ」より優れています。

発行：宮城県農政部みやぎ米推進課・古川農業試験場

【みやぎ米推進課】

〒989-8570  
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1  
TEL:022-211-2841 FAX:022-211-2849

【古川農業試験場】

〒989-6227  
宮城県大崎市古川大崎字富国88  
TEL:0229-26-5108 FAX:0229-26-5102

## 「すずみのり」の豆腐加工適性

試験名	豆乳抽出試験				豆腐加工試験
	蛋白質 (%)	抽出率 (%)	固形分 (%)	粘度 (mPa·s)	破断強度 (g/cm <sup>2</sup> )
すずみのり (a)	5.4	78.9	10.15	12.9	95
タチナガハ (b)	5.1	78.9	9.98	12.3	80
比較 (a/b*100)	106	100	102	105	119

※ 令和4年度 加工試験結果

## 「すずみのり」の外観



「すずみのり」

「タチナガハ」

本マニュアルの内容は、県ホームページでもご覧になれます。

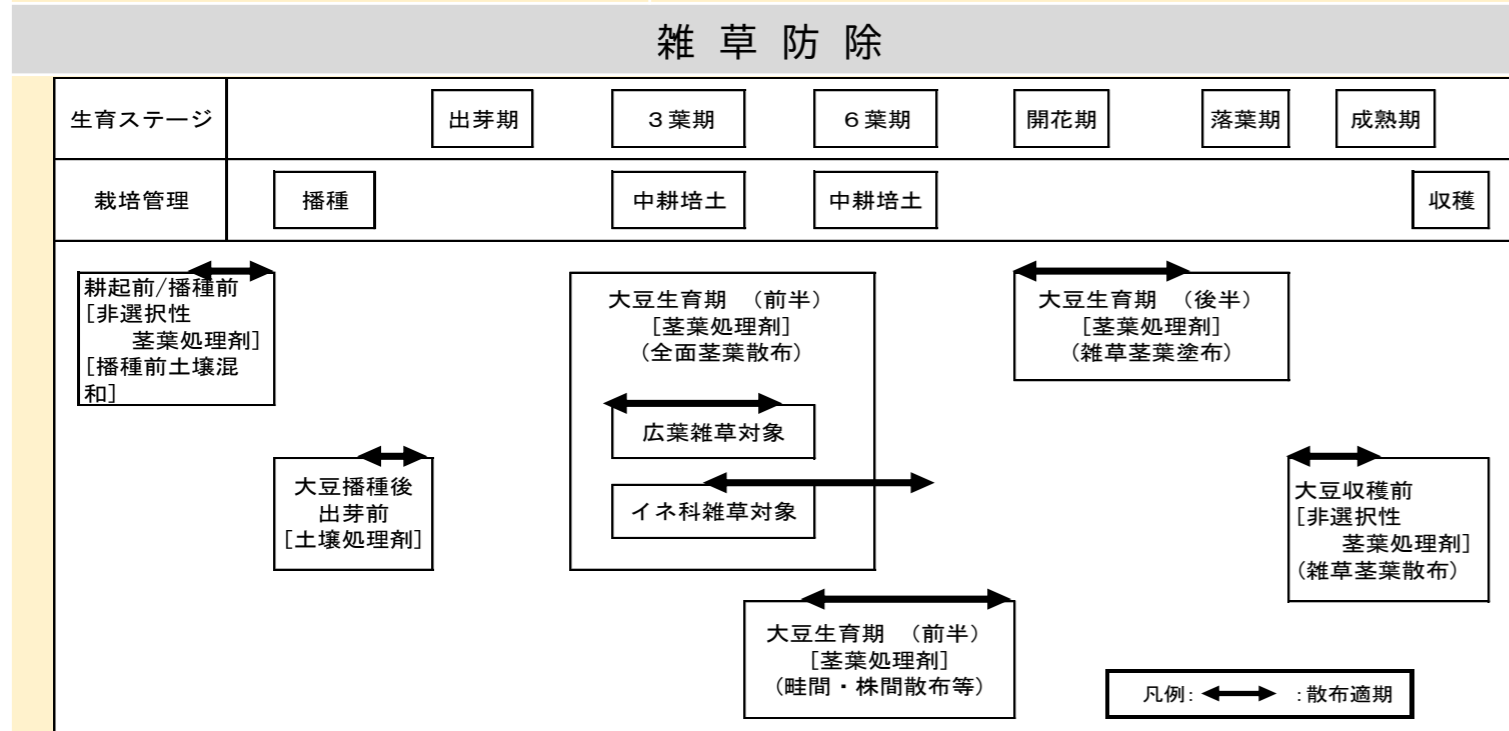
ホームページ：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/mugi-daizua.html>



# 「すずみのり」栽培暦

月旬	5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月			
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
生育ステージと主な作業	播種準備		播種 土壌処理剤		中耕・培土① (2~3葉期)		中耕・培土② (6~7葉期)		開花期		病害虫防除②		成熟期		収穫	

ほ場の準備	施肥及び播種	中耕・培土・追肥	収穫及び乾燥調製
<p>○排水対策 播種作業開始前までに実施</p> <p>・本暗きよの点検 ・明きよの施工・弾丸暗きよ 本暗きよに直交させて2~3m間隔</p> <p>○堆肥の施用 1~2t/10a</p> <p>○pH調整の目標 6.0 ~ 6.5 苦土石灰: 50~80kg/10a</p> <p>○砕土率の目標 70%以上</p>	<p>○基肥(成分量/10a): 窒素 1.5 ~ 2 kg リン酸 5 ~ 6 kg 加里 6 ~ 8 kg (麦稈すき込み時は、窒素分を 20% 増やす)</p> <p>○播種適期: 5月下旬~6月上旬 ★『すずみのり』は標播で栽培すること</p> <p>○種子消毒: ・鳥害忌避や他の病害虫防除等を考慮して剤を選択</p> <p>○播種間隔: 畦間75~80cm、株間20~25cm</p> <p>○播種深: 3~4cm</p>	<p>○中耕・培土: 基本は2回</p> <p>(1回目) ・本葉2~3葉期 子葉節が隠れる高さまで</p> <p>(2回目) ・本葉6~7葉期 初生葉が隠れる高さまで ただし、開花始期10日前まで</p> <p>○追肥(成分量/10a): ・最終の培土にあわせて、緩効性肥料(LP40)を、窒素成分量で5kg施用</p>	<p>○成熟期の判定: ・葉や葉柄が落ち、莢が褐色~淡褐色の色に変わり、莢をたたくと子実がカラカラと音がする時期</p> <p>○コンバイン収穫: ・成熟期から10~20日後頃 ・茎水分50%以下、子実水分18%以下 ・午前10時~午後4時頃に行う</p> <p>○乾燥機使用上の注意: ・子実水分が高い場合は通風乾燥を行うが、急激な乾燥を防ぐため、外気温差+5℃以下で行う</p>



### 病害虫防除

処理時期	播種前	播種時	開花時まで	開花期~莢伸長初期 病害虫防除①	子実肥大初期~子実肥大中期 病害虫防除②
対象	<p>【種子消毒】</p> <p>紫斑病 茎疫病 黒根腐病 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ 鳥害忌避</p>	<p>【土壌処理】</p> <p>アブラムシ類 フタスジヒメハムシ</p>	<p>【茎葉散布】</p> <p>アブラムシ類 ウコンノメイガ</p>	<p>【茎葉散布】</p> <p>紫斑病 ダイズサヤタマバエ オオタバコガ ジャガイモヒゲナガアブラムシ (後期多発発生時)</p>	<p>【茎葉散布】</p> <p>紫斑病 カメムシ類 マメシンクイガ フタスジヒメハムシ</p>
				【茎葉散布】 べと病	